

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕茶会の提唱者

美山要蔵ゆかりの品展示

一・茶碗

生前、要蔵が愛用していたもの。
没後、妻の静枝より次女の靖子が譲り受けた。

二・茶袱紗

要蔵からの依頼で、
妻の静枝がありあわせの布を使って手作りしたもの。
要蔵が茶道を辞め、華道と書道に専心しようとしたとき、
「多少なりとも茶道を習った
靖子が使いなさい、持っておくように」と生前に託された。

三・扇子

仕事で頻繁に通った舞鶴出張の折に京都で、
または、神田、日本橋の専門店などで、買い求めたものと思われる。
余白に、要蔵の記した覚え書きが見える。

四・美山照陽著 『王羲之との對話』

華道誌に連載の百話をまとめたもの。
一九八一年（昭和五十六年）に刊行。
照陽は要蔵の筆名。

五・干支年賀状

毎年の干支を年ごとに五百余通、要蔵が篆書で揮毫。
右より、

一行目 寅、子、申
二行目 酉、丑、巳
三行目 戌、龍、午
四行目 亥、卯、未

六・伊藤智永著 『奇をてらわす』

講談社ノンフィクション賞の最終選考に残った力作。
二〇〇九年（平成二十一年）刊

七・伊藤智永著 『靖国と千鳥ヶ淵』

「A級戦犯合祀の黒幕にされた男」の副題を持ち、カバーには
「陸軍省高級副官・美山要蔵の昭和！」
『奇をてらわす』の文庫版。

二〇一六年（平成二十八年）講談社刊 定価…本体一〇〇〇円（税別）

